

平成 30 年度東北地域災害科学研究集会に参加しました(2018/12/22-23)

テーマ：自然災害

場 所：秋田大学工学部 1 号館（秋田県秋田市）

URL：<http://nds-tohoku.in.arena.ne.jp/>（自然災害研究協議会東北地区部会・日本自然災害学会東北支部）

平成 30 年 12 月 22 日(土)～23 日(日)の 2 日間、秋田大学工学部（秋田県秋田市）において自然災害研究協議会東北地区部会・日本自然災害学会東北支部が主催する『平成 30 年度東北地域災害科学研究集会』が開催され約 80 名が参加、39 題の研究発表(口頭)と 6 題のポスター発表が行われました（うち災害科学国際研究所関係者による発表は口頭発表 3 題、ポスター発表 1 題）。本研究集会は、自然災害に関する情報を発信、共有化し、また研究成果を発表する学会で、事務局が当研究所内東北地区自然災害資料センターに設置されており、災害アーカイブ研究分野が担当しています。研究集会では、当研究所から人間・社会対応研究部門の奥村誠教授、情報管理・社会連携部門の柴山明寛准教授、リーディング大学院の久利美和講師と杉安和也助教が研究発表を行いました。

また、1 日目には、一般公開の特別講演シンポジウム『日本海中部地震から 35 年経た”今“考えておきたい北東北の自然災害～津波や火山による災害に備えて～』（共催：秋田大学大学院理工学研究科附属地域防災力研究センター）が開催され、東北大学の首藤伸夫 名誉教授より「日本海中部地震津波とは何であったか」、秋田大学大学院理工学研究科の松富英夫 教授より「津波防災にまつわる最近の話題例」、秋田大学大学院教育学研究科の林信太郎 教授より「十和田火山の「非常に大きな噴火」－915 年噴火と災害対策の課題」と題して講演が行われました。また、2 日目には、「平成 30 年度自然災害研究協議会東北地区部会総会および日本自然災害学会東北支部総会」も行われ、今年度の活動報告の他、今後の運営や研究集会の開催方法などについて討議されました。

本研究集会での研究所構成員による発表題目等は、次のとおりです（著者名は発表者(○印)と研究所構成員(下線)のみ記載）。

<口頭発表>

- 手塚寛、久利美和ら：液状化実験を活用した効果的な防災教育の検討
- 関亜美・久利美和ら：自主的・持続的な防災教育活動の普及を目指した実施支援
－減災アクションカードゲームを例に－
- 小野寺凜成・佐藤健：木造住宅の耐震改修促進に向けた連繋型政策モデルの提案
- 久利美和ら：2018 年口永良部火山噴火警戒レベル 4 での対応と課題
- 奥村誠：平成 28 年北海道豪雨による道路被害からの教訓
- 杉安和也ら：東日本大震災被災地における復興事業完了後の津波避難訓練の取り組み
－2018 年福島県いわき市薄磯区の事例－
- 渡邊武・杉安和也ら：火災時における避難リスクの認知向上を目指した屋内濃煙体験訓練の提案
- 高瀬慎介・森口周二・寺田賢二郎・邑本俊亮・櫻庭雅明ら：心理学を用いた災害シミュレーションの可視化手法の検討
- 今井健太郎・岡田真介・蝦名裕一：文化元年（1804 年）象潟地震の震源像

<ポスター発表>

- 柴山明寛：震災アーカイブの変遷について

文責：久利美和（リーディング大学院）
（次頁へつづく）



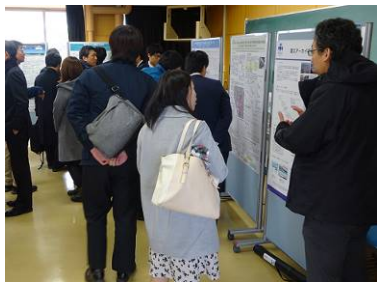
久利美和 講師



奥村誠 教授



杉安和也 助教



ポスター発表
(柴山明寛准教授)



発表会場の様子



公開シンポジウム